

課題名 アイデアコンペ

指導教員 片渕 和啓

参加コンペ名 久留米工業大学2013年ものづくりコンテスト

課題 「ルーム・シェア・ハウス」

主催 久留米工業大学

審査員 池鯉鮒 悟 吉住 孝志 大森 洋子 野々村 善民 土井 紀佳
満岡 誠治 松鷲 悟実 中島 隆

研究の目的

アイデアコンペを通じて、現代における非家族の共生の在り方について考察し、成人6人が住むための「ルーム・シェア・ハウス」を提案する。

作品名 テーブルハウス

コンセプト

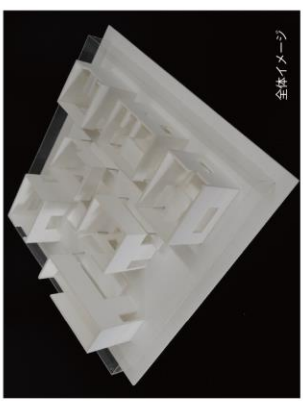
成人した学生6人が一緒に住める学生寮としてルーム・シェア・ハウスを提案する。他人と一緒に住むから日常生活の中であらゆるものを共有しなければならない。その共有するものの中で「テーブル」に着目して設計を行う。最初にテーブルについて考え、そのあとそのテーブルに合わせた住宅を設計するという方針で行う。最初に普段の日常生活で使う一般的なテーブルを複数考える。そしてその1つ1つのテーブルの用途がすべて満たされるような1つの巨大なテーブルを考える。次にその巨大なテーブルと個室の関係について段階的に考え、テーブルと個室の住宅内における位置関係を考える。巨大なテーブルを住宅の真ん中に置き、それがすべての個室の中まで連続するようにする。

「テーブル」は使う人、用途によって大きく変化する。ペンとノートを置けば勉強机、料理を置けば食卓、鏡を置けば化粧台になる。このように一様な巨大なテーブルでもテーブルの周りの環境を工夫することによって、同じ場所でも1つのことだけではなく様々なことができるようになり、よりテーブルを有効的に利用することができるようになる。住居人が個人で好きなようにテーブルを使ったり、また複数人で一緒に共有してテーブルを使ったりすることで巨大なテーブルが住居人の生活の中心となり、コミュニケーションの場となるだろう。

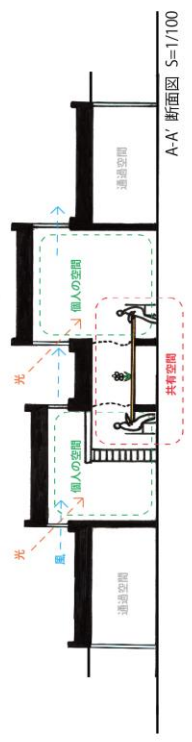
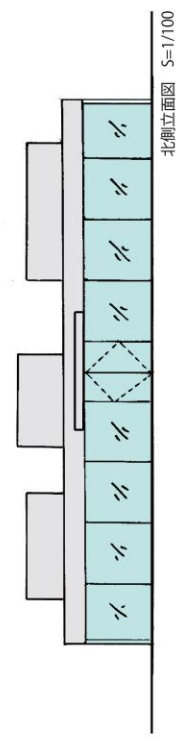
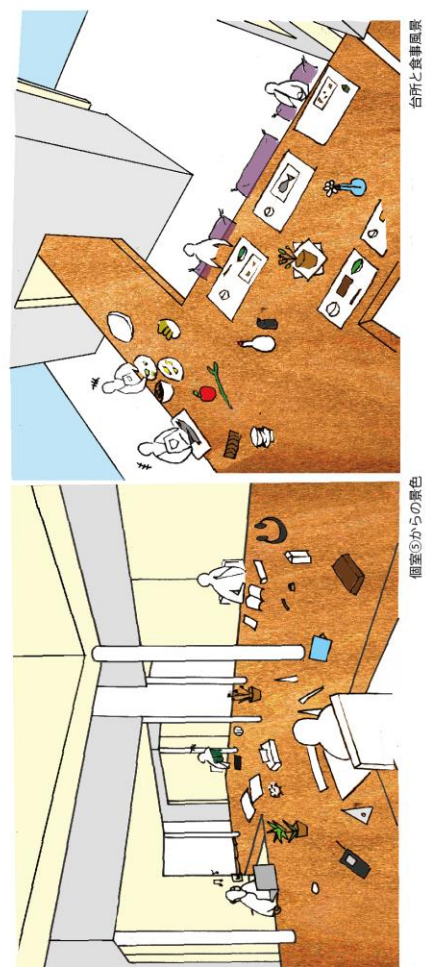
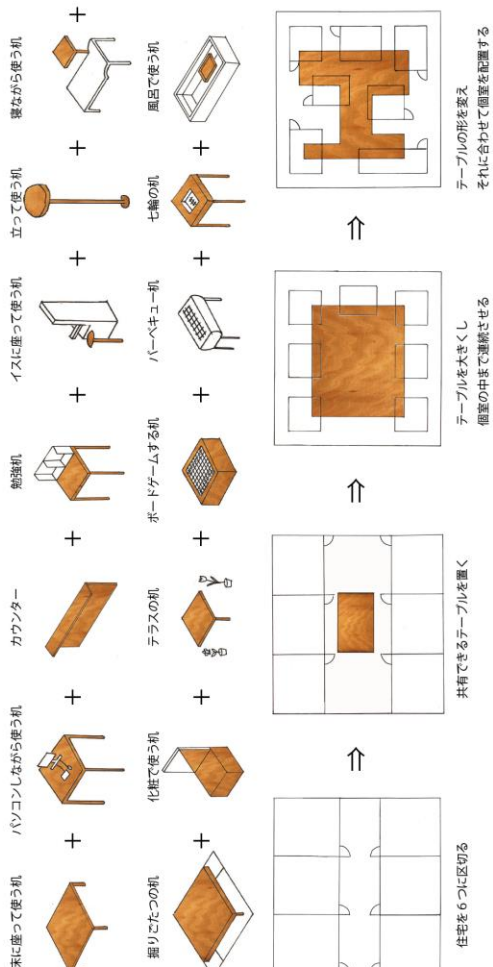
テーブルがあるリビングと住居人が住む個室の天井の高さを変えることや、住宅の大外の壁をすべてガラス張りにすることによって自然の光や風を住宅内に取り込めるようにする。これにより照明器具や空調設備の使用を減らすことができ、コストの面でも学生が住みやすいようなルーム・シェア・ハウスとなるように考える。

テーブルハウス

成人した学生6人が一緒に住める学生寮としてルーム・シェア・ハウスを提案する。他人と一緒に住むから生活の中であらゆるものを共有しなければならぬ。その中でテーブルに注目して設計を行った。下にあるような一般的なテーブルを考え、これらの用途を満たすような1つの巨大なテーブルを考え、次にテーブルと個室の関係について肉体的に考えていき、巨大なテーブルを家の真ん中に置き、そのテーブルが個室の中心まで連続させるようにした。テーブルは使う人、用途によって大きく変化する。ベンチとノートを置けば勉強机、料理を置けば食事、鏡を置けば化粧台になる。ただ巨大なテーブルを置くだけでなく、テーブルの周りの環境を変えることによってそのテーブルで様々なことができるようになり、よりテーブルを有効的に利用できるようになる。住居人が各自で好きなようにテーブルを使ったり、一緒に共有して使ったりすることができ、巨大なテーブルが住居人の生活の中心となり、コミュニケーションの場となるだろう。



全体イメージ



- ① 個室 1 ⑤ 個室 5 A キッチンで料理をする E カウンターでお酒を飲む
- ② 個室 2 ⑥ 個室 6 B 床に座って料理を食べる F 風呂で机にシャンプーを置く
- ③ 個室 3 ⑦ サニタリールーム C 立ちながら料理を食べる G 個人で好きなように使う
- ④ 個室 4 D バーベキューをする

